総合的な学習と基礎基本を旨とした国語科の授業

――評価基準の改善を見通して――

楢原　理恵子

1、総合的な学習に生きる国語科の指導
2、基礎基本の定着をはかる国語科の指導
3、国語科における評価基準

はじめに

二〇〇二年四月。新学習指導要領がスタートした。「自ら学び、考える力の育成」や「基礎基本の確実な定着」など、多くのねらいや方向性を包含した改訂のもとに、中学校の現場でもさまざまな試みが、同時並行の形で進行している。

本校（宮崎市立木花中学校）においても、「英語・数学の全クラス少人数制授業」「一般教科（国語・体育）時数の削減」「選択教科の倍増」「相対評価から絶対評価への移行」「総合的な学習の時間（木花タイム）の更新」などの実施と、それに伴う評価基準の作成などの基礎的作業がいちどきに行われ、ようやく一学期を終えたところ（発表当時）である。混乱は収束したとはいえず、新たな問題も浮上している。現時点での、一現場における現状や取り組み、問題点などを、協議題に沿って三つに分け、以下の順に提出してみたい。

1、総合的な学習に生きる国語科の指導

（1）総合的な学習に生きる国語科の基礎的基本的事項の精選

―平成十二年度校内研修を足場に―

木花中における「総合的な学習の時間」（以後「総合」と略称）は、平成十二年度より年間五十時間扱いでスタートした。ねらいは、「自ら課題を見つける力を養う」「学び方を身につけさせる」「自分の生き方を問い直す」である。

この際、総合に生きる教科の基礎基本の洗い出しが必要と、校内研修で取り上げられ、国語科においてもその作業を行った。しかし、

基礎基本の視点や範囲はつかみ難く、協議の末、以下のような手順を踏むことにした。

A　学習指導要領の教育内容（観点別達成目標の項目）に着目
＋
B　本校の生徒の実態に即する

その結果、次のような基礎基本の事項と指導内容を提出した。

基礎・基本	生徒の実態	具体的対策（手立て）
関心・意欲・態度 進んで表現を工夫したり、読書する力	・朝自習を離れて読書（活字）に親しむ生徒が少ない。	・朝の読書 ・本の帯作り ・新聞宅習
表現 話題や題材を選び自分の考えを深め展開を工夫し適切に話したり、書いたりする力	・表現することに関して、個人差がかなり大きい。	・自分達の作品を鑑賞しあう。自分で考える時間の確保。
理解 主題や要旨をとらえ自分の見方や考え方を深めながら内容を的確に理解する力	・直感的にとらえやすく論理的な理解ができにくい。	・ワークシートの効果的な活用 ・読解の練習を繰り返す。
言語事項 ・国語に関する事項（音声、語句、語彙、文法、漢字など）理解し、知識を身につける力 ・適切な形式を考え、読みやすく速く書く力	・総じて語彙が乏しい。ドリルを厭う。古典・文法は苦手意識を持っている。 ・日常でも読みやすく速く書くことが苦手。	・小テスト ・百人一首大会 ・場や書く材料、用具に応じた書き方の指導

以上のように、非常にラフなとらえ方ではあるが、国語科の担当者が全学年を通じて本校の実態や必要とされる基礎基本を共通認識する契機となった。この当時の総合の年間計画の中には、言語活動系のスキル学習が入っておらず、ほとんどを国語科で担うといった状況であった。もっとも国語科で計画的に取り立て指導を行ったわけではなく、日常の指導の中で、意識的に、あるいは力点をおいてといった関わり方であった。しかしながら、当時から国語科の時数の削減は予想されていたので、すべてを国語科が引き受けるというのではなく、総合そのものの時間の中にも、言語活動系のスキル学習を位置づける必要性があることは主張してきた。

（2）総合的な学習における国語科関連の取立て指導

翌十三年度以降になると、このスキル学習の一部が総合に位置づけられるようになった。その年の総合の進め方に合わせて、大きく次の二つのスタイルが取り入れられている。

A　総合的な学習の計画に適宜位置づけるばあい

（平成十三年度）

B　総合的な学習の計画に集中的に位置づけるばあい

（平成十四年度）

前者はスキル学習を適宜リハーサル的に組み込んだものである。実践的に活動する事前にスキル学習を行うので、効果も上がりやすく、本番でも学習者は自信をもって活動できたようだ。後者は年間計画の当初に六時間連続の集中的なスキル学習を行っている。スキル学習はクラス単位で行うが、その後の総合の学習活動はコース別ローテーション方式となっている。スキル学習もコース別学習も、担当者は同じ内容を、繰り返し指導することになる。学習者は練習と実践の場（構成メンバー）が異なり、良い意味での緊張感がもたらされたようだ。また、担当者にとっては専門性が生かせ、準備等でも負担を軽くすることができた。言語系スキル学習は国語科の担当が中心となって指導内容を検討し、現在も試行を継続している。

（3）総合的な学習に生きる教科書教材

―平成十四年東京書籍のばあい―

今年度教科書も大きく改訂されたが、教科書自体が総合を意識して編纂されている。東京書籍の場合、総合に生きる教材を掲げると下の表のようになろう。

この指導計画に沿えば、日々授業の中で継続的に、あるいは取り立て指導として、総合に生きる授業が実現されるともいえる。しかし、実際問題として十全に機能しうるかという点については、後の項で触れていきたい。

	一年	二年	三年
一学期	（論理）構成をとらえる「暴れ川を治める」 （伝達）分かりやすく書く （相互理解）分かりやすく話す （問題解決）討論を楽しむ	（論理）論理をとらえる「クマに会ったらどうするか」 （伝達）調べて報告する （相互理解）ニュース番組を制作する （問題解決）立場を決めて討論する	（論理）考えをまとめる「夜は暗くてはいけないか」 （伝達）パンフレットを作る （相互理解）プレゼンテーションをする （問題解決）話し合いで問題を解決する
二学期	（説得）根拠を示す （情報）情報を読む「ヒートアイランド」他	（説得）意見を書く （情報）情報を役立てる「小さな労働者」他	（説得）主張を書く （情報）情報を見分ける「イメージからの発想」他
三学期	（学習の創造）インタビューをする 身近な題材書く	（学習の創造）聞き上手になろう 新聞を作ろう	（学習の創造）聞き合おう ―夢・未来―

（4）総合に生きるテキストの活用

教科書以外にも、総合に生きる言葉に関わる学習の参考テキストが編まれている。国語科の授業にも総合のスキル学習にも活用できよう。参考までに挙げておきたい。

「ことばの発信スタジオ―『総合的な学習の時間』に生きる学び方ハンドブック―」　九州地区中学校国語教育研究協議会編　平成十三年二月三日　九州教科研究協議会発行

（5）現状と課題

- 総合的な学習の時間を成立させる必須条件として、言語活動・言語技能などの習得が再認識され、その中核的教科としての国語科の果たす役割も大きい。国語科の枠にとどまることなく、総合的な学力の基盤となる国語力の育成を念頭に（1）日々の指導（2）国語科における取立て指導（3）総合的学習の時間における取立て指導を有機的に関連させた効果的な指導が求められる。
- 総合的な学習に生きる国語科の基礎的基本的事項の精選は、国語科学習全体における基礎的基本的事項の見極めと連動している。同じ視野の中でそれらの作業を適切に進め、目的に沿った、実効ある授業の構築をめざしたい。

2、基礎・基本の定着をはかる国語科の指導
―「さんちき」（東京書籍一年）のばあい―

（1）基礎的基本的事項の抽出

次に国語科の学習における基礎基本を「さんちき」という教材を通して考えてみたい。

この教材そのものの学習のねらいは、「読書に親しみ、いろいろなものの見方、考え方にふれる」である。

しかし、読む単元として、もっと長いスパンで見つめ、遠くの姿までイメージするとすれば、そのめざすべき学力は、「良き読書人として生涯をとおして読書に親しみ、いろいろなものの見方や考え方ができるようになる」となろうか。

一方、学習のねらいをさらに凝縮し、めざすべき学力の実現の手だてを具体的に求めるとすると、まずは「小説のおもしろさを知る」ことではなかろうか。それには、「小説の読み方を知る」という知識や技術が必要条件となってこよう。

これらの関係は次のようになる。

めざすべき学力「良き読書人として生涯をとおして読書に親しみ、いろいろなものの見方や考え方ができるようになる」

→

学習のねらい　「読書に親しみ、いろいろなものの見方、

考え方にふれる」

←

本教材における中核的目標「小説のおもしろさを知る」
＝「小説の読み方を知る」

基礎的基本的事項を抽出するにあたっては、以上の長期的ねらいまで視野に入れ、それを支えていくに足るものを見いださなくてはならない。それに答えられるか、はなはだ心許ないが、本教材における基礎的基本的事項を「小説の読み方を知る知識や技術」という点に焦点化し、以下の四項目としてみた。

〈本教材における基礎的基本的事項〉

① 小説の四要素（時代・場面・人物・事件）を理解できる

② 人物の言動や情景描写などから登場人物の心情を想像したり、情景をイメージしたりできる

③ ストーリーのクライマックスや中心的人物の変容に気づき、小説のテーマにふれることができる

④ ①～③が成立する前提として、必要な漢字の読み書きや語句の意味がわかる

（2）指導計画

- 予習～1単元前に予告し、3回通読、意味調べ、初発の感想をまとめておく。
- 「さんちき」を通読し、漢字の読みの確認。初発の感想の発表。（1時間）
- 交互読みなどで再読。語句の意味を発表しあい、相互確認。（1時間）
- 小説の読み方（四要素）を理解し、時代・場面・人物・事件の設定のてがかりになる表現を探す。（2時間　本時1／2）
- 主要登場人物の心情を、事件にまつわる描写や言動から想像する。（2時間）
- 主要登場人物の人物像をつかむ。（1時間）
- クライマックスやさんちきの変容に気づき、テーマを考える（1時間）
- 復習～ワーク、漢字ドリル、パワーカード等　（次時小テスト）

（3）本時の学習過程

（次のページ参照）

（4）現状と課題

- 本教材は「読書を楽しもう」という読書単元の中にあり、指導書では3時間扱いとなっている。しかし、全般的に読書習慣が十分身についてない実態や、中学1年の初めての小説教材であり、この時点で小説の読み方（楽しみ方の基盤）を理解し、身につけてほしいという考えから、8時間扱いの読解的指導とした。また、このような知識や技能は繰り返し学習しなくては習得が難しく、できれば学期に一つは扱いたいところだが、他の教材や領域とのバランスや、時間の確保など、年間の指導計画に苦慮しているところである。

学　習　内　容	学　　習　　活　　動	基礎的基本的事項
1、帯単元を行う		
・パワーカード小テスト	・前回予告のパワーカード小テストを行う。(10問程度) 相互点検。	○（言・知）文法の知識
・「好きなせりふ」発表	・「さんちき」の文章中から自分で選んだ「好きなせりふ」を、理由もそえて、感情を込めて読む。(6名程度)	○（話聞・技）伝え合うこと
2、本時の目標を知る	小説の楽しみ方を知ろう！	
3、四要素を理解する	・小説を構成する「時代」「舞台」「人物」「事件」の重要性を理解する。	◎（読・知）小説の読み方
4、「舞台（場所)」を知る	・「舞台（場所)」を表す文章表現を探し、ノートにメモする。	◎（読・技）小説を読むこと △（書・技）メモすること
	・発表する。	△（話聞・技）発表すること
5、「時代」を知る	・「時代」を表す文章表現を探し、ノートにメモする。	◎（読・技）小説を読むこと △（書・技）メモすること
	・発表する。	△（話聞・技）発表すること △（話聞・技）理解すること
6、「時代背景」を理解する	・「時代背景」をまとめる。	△（書・技）まとめること
7、自己評価をする	・自己評価表を記入し、授業を振り返る	
8、次時の予告を聞く	・次回の小テストの範囲と授業の準備を知る。	

(注) パワーカード～国語科学習の基礎的知識を分野別に30項目ずつ一問一答式にまとめたプリント。本時では文法編の復習を行った。
「好きなせりふ」～2時間目の繰り返し読みの時に気に入ったせりふを抜き出し、その理由も書いたプリント。「さんちき」の授業のはじめにローテーションで発表している。
◎～本時のポイントとなる事項　○～帯単元として少しずつ継続していく事項　△～授業の手段として位置づけている事項

• 「中学校段階における国語科の指導すべき内容」は、「生涯を支える国語の学力」を見通す中で確立され、現実の1単位時間における「基礎的・基本的事項」を見極める中で具現化されていく。

国語科の時数が減少していく中で、何を、どの程度、どのように指導していくのかを1年間（及び3年間）の見通しをもって、精選し、適切に配置していくことは急務であり、教科書の編集においても大きな配慮がなされている。それらを土台にしながら、指導者それぞれが客観的（指導要領、参考文献、資料）、実感的（自らどのようにして国語の力を獲得してきたかという学習体験、指導経験）、現実的（現場の実態）に模索し、練り上げていくことが必要であろう。と同時に、国語科に携わる者同士の実践や実績、情報をできるだけ共有し合い、練磨する機会が望まれる。

3、国語科における評価規準・基準

（1）評価規準・基準表作成にむけて

基礎基本の確実な定着や確かな絶対評価を実現するためには、その根拠となる評価基（規）準が必要とされ、形にすることが求められている。本校においても、平成十三年度から講習や研修が行われ、作業を進めてきた。しかしながら、「基準」や「規準」の理解や見極めをはじめ、評価を明快に具体化することは国語科の場合、他教科以上に困難といえる。

① 平成十三年度十一月時点での
本校における評価基準表作成モデル　＊資料1

② 平成十四年度八月時点での
本校における評価規準表作成モデル　＊資料2

これら二つの資料でも分かるように「基準」のとらえ方や表の形式そのものがゆれており、作成には大きな不安と徒労感がつきまとっていた。

③「単元と評価規準作成のマトリックス作成のための手順」

一方、任意の研究団体による成果も資料として随時提供されるようになった。国立教育政策研究所による評価基準、方法などに関する「報告」を活用して学年全体のマトリックスを作り（＊資料3）、それを手がかりに単元の基礎基本を抽出するものである。

以下、手順の部分を引用する。

ア　1単元1領域の指導を基本とする。つまり5観点のうち3観点に◎をつけるのを基本とする。

イ「報告」の「評価規準の具体例」の文言を活用する。

（中略）

オ「領域」と「言語事項」の評価規準は、合致させる。

カ ◎のみとする。○はつけない（同じ領域内においても）。

（2）国語科の評定方法

① 一般的評定算出の方法

ア　観点別評価を利用する

• AAAAの場合は5、AAABの場合は5あるいは4など。

・A～5　B～3　C～1で計算するなど。

イ　重み付けをして後はアと同様

ウ　もとの評価資料から直接求める

絶対評価で評定を決定する場合は、これまで以上にその基準や算出方法が厳密でなければならない。一般的な算出方法は、おおむね右の三通りであるが、本校国語科の場合は、より誤差の少ない「ウもとの評価資料から直接求める」方法を採用した。

② 本校国語科の評価算出の考え方

テスト　60点満点	合計 ➡ ➡	5～　90点以上
忘れ物　10点満点		4～　80点以上
ノート　10点満点		3～　50点以上
発表　10点満点		2～　20点以上
小テスト10点満点		1～　1点以上

評　定　方　法

また、評定の基盤として、観点別学習状況の評価もその根拠が明らかにされなければならない。本校国語科では、できるだけ具体的に次のような項目によって評価の算出を試みた。

評価の観点	配　点	評価項目とその基準
国語への関心・意欲・態度	40%以上B 70%以上A	忘れ物・ノート・発表・小テスト・作品・家庭学習など
話す・聞く能力	50%以上B 80%以上A	発表（朗読・音読・スピーチ）テストなど
書く能力		テスト、作品など
読む能力		テストなど
言語についての知識・理解・技能		テスト、小テストなど

現行の評定や観点別評価は、以上のような方法によっているが、学習者の状況が百パーセント適正に把握されているとは言い難い。現状と照らしながら、教科担当者間で綿密な打ち合わせを継続して行い、改善を加えていきたい。

③ 評価資料

ア 定期テスト（読解問題・言語事項・課題作文など）

評価の根拠として具体的な資料が必要となるが、テストはその大きな柱となる。観点別評価の視点を持ち、絶対評価に耐えられる内容作成を目指したい。テスト後には観点別学習状況を示す「定期テスト観点別評価表」を記入させ、意識化を図っている。

評価表は次のようなものである。

	読むこと		言語事項			書くこと	感想や反省
	現代	古典	漢字	文法	語句		
1学期中間	%						
	評定						
1学期期末							
・・・・							

（注）問題の分野別に得点の割合（%）を計算し、上段に記入する。また、その割合を評定として示しているので（例えば、85%以上は5など）それを下段に記入する。このカード記入は、年間を通じて行い、自己評価や自己診断に活用させる。

イ 平常の評価項目

定期テスト以外の平常の評価の資料としては、以下のようなものが挙げられる。

- 授業中の学習進度、態度状況 ～ 観察（記録）
- 忘れ物（授業準備、課題など） ～ 授業中確認、提出物確認（記録）
- 挙手 ～ 挙手や板書の回数を自己申告（記録）
- 宅習 ～ 課題以外の国語に関わる自主学習を自由提出（記録）（漢字ドリル、ワーク、感想や詩作、読書の記録など）
- 小テスト ～ パワーカード、漢字、文法テストなど相互点検（記録）
- ノート、作品 ～ 提出（記録）
- 発表（スピーチ、朗読、音読、暗誦など） ～ 観察、テスト（記録）

△自己評価表、相互評価表 ～ 提出（記録）

（3）現状と課題

- 評価規準および基準の意味内容の把握が難しく、一覧表作成時にも混乱や大きな見直しがあった。（1）指導や評価の実際に役だつ（2）作成に多くの労力が費やされない一覧表の作成の方針やモデルが求められる。
- 評定の算出の仕方にはさまざまな試みがなされている。本校国語科は、できるだけ誤差を少なくするため、元の資料から直接算出する方法をとったが、それでも不透明さは残る。（1）

明瞭で、簡単な平常の評価方法（2）評価基（規）準が体現された定期テストの問題作成（3）評定の適切な内容や配分など、まだまだ不十分な点は多い。高校入試も念頭におき、国語科の担当者間や、他校の国語科、市内・県内の学校との協議や連携が必要となる。

おわりに

「主体的な学習の確立」と「基礎・基本の徹底」は、今回の学習指導要領改訂の大きな支柱である。主体的な学び手となるための基盤的条件として、基礎・基本の徹底は位置づけられている。また、基礎・基本を明確にして授業を構想することの有効性は言うまでもないことである。しかし実際のところ、少ない授業時数の中では、「基礎・基本の徹底」がややもすると、知識の習得やドリル学習のみに終始してしまう恐れもある。それでは国語の力、ことばの力は枯渇していくのではないかと危惧している。

一般の授業では、基礎・基本を徹底し（基礎・基本のみに終始し）、総合的な学習や選択教科の時間に主体性や本格的な学力の育成をゆだねるといった安易な分断的なあり方に陥らぬよう、分断ではない連携を、知識偏重ではない確かな学力を見失わないよう心したい。総合的な学習に生かす国語の力を構想したり、基礎・基本を精選したり、評価規準を規定したり、評定を算出していく作業が、最終的な目的を見失い、処理のための処理に陥ってはならない。豊かな国語の力とは何か、わたしたちは、それを豊かにイメージし、それに培う日々の個々の具体的な行為を積み重ねばならないと自戒する。

（宮崎市立木花中学校）

No.3

単元名等	観点	評価の規準	評価の基準 十分満足できる（A）	評価の基準 おおむね満足できる（B）	評価の基準 努力を要する（C）	評価の方法
【単元名】 ２論理をとらえよう 「クマにあったらどうするか」 【単元の目標】 論理的な文章の書き進め方をとらえ，自分の表現に役立てる。 【学習活動及び内容】 １　この文章のおもしろさと特徴について話し合う。 ２　本文に示されている８つの方法それぞれについての筆者の説明を表にまとめる。 ３　わかりにくい語句の意味や、論理的な文章としての表現の特徴をめぐって話し合う。 ４　学習した論理的な文章の書き表し方を参考にして、「○○に会ったら（なったら）どうするか」という文章を書く。	関心・意欲・態度	◎本文のように問題の提示から始まる、方法を述べる文章の書きかたを理解し自分の文章表現に役立てようとする。	・「大形動物との付き合い方の法則」「意外なことながら」等の表現の意味を捉えて、筆者のねらいを考えようとする。	・選択肢の順番に説明がされているわけではないことを踏まえて、その意味と効果を考えようとする。	・その都度、動物の習性や理論付けがなされていることに気付く。	・発表
	読む能力	◎クマに出会った時の８つの方法（選択肢）についての筆者の解説を表にまとめることができる。	・そのまま書き抜くだけでなく、文章として整理できる。	・本文に出てくる方法すべてについて整理できる。	・大まかな表として、目立つ事柄について書くことができる。	・ワークシート
	話す・聞く能力	◎この文章特有の表現方法や内容のおもしろさをあげて話し合うことができる。	・特徴となっているユーモラスな表現とその効果について話すことができる。	・クイズ形式の構成が、文章を読みやすくおもしろいものにしていることに気付いて話し合うことができる。	・文章のおもしろさについて話すことができる。	・話し合い
	書く能力	◎筆者の説明の仕方を理解し、説明的な文章を書くことができる。	・見聞・体験・事実や調べたことがまとまりよく書ける。	・自分の考えや根拠を、分かりやすい構成で書ける。	・題材に関する事柄が分かりやすく書ける。	・作文
	言語事項	◎語句の意味を理解することができる。	・その言葉を使うことの効果や語感も把握できる。	・辞書を利用して、文章にある表現で意味が書ける。	・ノートにその言葉の意味が書き写せる。	・テスト

様式３：第３学年　数学科　評価規準表

No.1

単元名等	観点	「おおむね満足できる(B)」状況と判断される状況	「十分満足できる状況(A)」と判断される視点	努力を要すると判断された生徒への具体的な対応・手だて	評価の方法
【単元名】 式の計算 【単元の目標】 ○多項式と単項式の乗除について理解し，多項式の積の展開の仕方について理解する。 ○乗法公式を用いて，一次式の積の展開ができるようにする。 【学習活動及び内容】 ○多項式と単項式の乗法と多項式を多項式でわること ○多項式の乗法 (a＋b)(c＋d)を展開し，同類項をまとめておくこと ○２項式×３項式を展開すること ○・・・ ○・・・ ○・・・ ○・・・	関心・意欲・態度	①　単項式と多項式の乗法，多項式を単項式でわる除法に関心をもちそれらを計算しようとする。 ②　(a＋b)(c＋d)のような積の形で表された式を，１つの多項式で表すことや乗法公式に関心を持ちその仕方を考えようとする。	①　分配法則などの既習事項を利用し，計算方法を見いだし考えようとしているか。 ②　(a＋b)(c＋d)のような積の形で表された式を，１つの多項式で表すことや乗法公式を見いだし，その仕方を考えようとする。	①　他の生徒の気づいたことや考えたことなどを紹介する。 ②　他の生徒の気づいたことや考えたことなどを紹介する。	発表 ノート 観察
	見方・考え方	※年間指導計画の観点別学習状況の評価規準の欄を転記する。	※視点部分に＿＿＿をいれる。	※　評価規準に対応して，番号はつけていく。 指導と評価の一体を考える。	
	表現・処理				
	知識・理解				

＊資料３～　単元と評価規準のマトリックス（作成中）

評価規準 ＼ 単元（題材）		1 永久欠番	俳句を味わう	2 夜は暗くては	敬語のはたら	漢語の構成	打つと撃つ	3 パンフレット
関心・意欲・態度	①話し合いをするとき，自分の考えを伝えるために工夫して表現しようとしたり，相手の立場や考えを尊重して聞き取ろうとしている。							
	②意見発表のための文章を書くとき，他の人の文章を読み，論理の展開や材料の活用の仕方などについて，積極的に自分の表現の参考にしようとしている。							
	③必要な情報を集めるために読むとき，学校図書館等を積極的に活用しようとしたり，目的や意図に応じて様々な種類の文章を詳しく読み比較しようとしている。							
話す・聞く	①ニュースなどを紹介するとき必要な情報を集め，認識を広めたり深めたりしようとする。							
	②討論の時，意見と事実とを組み合わせて説得力のある話し方をしたり，構成や展開に注意して聞き取ったりする。							
	③対話の時，相手や場面に応じ適切な語句や文を使い分けて話したり聞き取ったりする。							
	④話し合いをする時，意見を聞いて自分の考えを広めたり深めたりしている。							
書くこと	①社会の様々な課題について，関連する資料を基に自分のものの見方や考え方を深めている							
	②インターネットや図書館等を利用して収集した材料を整理し，理解し，判断している。							
	③相手や目的，場面などに応じ，伝えたい事実や事柄を明確にしている。							
	④手紙などの通信文において，相手や目的伝えたい内容の中心や自分の考え方を明確にする							
	⑤手紙などの通信文において，書き出しや中心部分の展開などを工夫している。							
	⑥意見発表などの文章作成時に，自分の意見とそれを裏付ける適切な材料を示している。							
	⑦論理の展開時に論点を明確にし，文章の内容を整理して分かりやすい文構成にしている							
	⑧文章の段落の設け方，段落相互の関係などを検討し，説得力のある文章にしている。							
	⑨互いの書いた文章を吟味し合い，自分の表現に役立てている。							
読むこと	①語句の辞書的な意味と文脈上の意味とに注意し，語句のの確で効果的な使い方について理解して，自分の言葉の使い方に役立てている。							
	②文章を読み，書き手の個性的な説明の仕方や説得の方法などをとらえ，「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に役立てている。							
	③音読や朗読を通して，構成や展開，説明や描写，比喩など文章の叙述の仕方に注意しながら読んでいる。							
	④文章を読んで書き手の思考や心情に迫り，人間，社会，自然などに対する自分の感想や意見をもてるようになる。							
	⑤ある事柄についてもっと深く知るためや，文章やスピーチなどの形で発表するために材料を集めている。							
	⑥集めた情報を取捨選択したり，加工したり，引用箇所や挿入部分を検討したりするなどして自分の表現に役立てている。							
言語についての知識・理解・技能	①ニュースを紹介する活動などを通し，伝達機能を持った音声の働きや母音と子音，リズム，アクセント等の仕組みに関して体系的に理解している。							
	②討論をするとき，説得力のある表現にかかわる対義語，慣用句，類義語などの使い方に注意している。							
	③説明をするとき，多様な表現様式や展開，文の成分の順序などについて考えながら話したり聞いたりしている。							
	④インタビュー等の対話をするとき，助詞や助動詞などの働きに注意している。							
	⑤スピーチなどをするとき，共通語や方言を場に応じて使い分けている。							
	⑥対話をするとき，敬語に対する認識に基づいて，相手や場面に応じた適切な使い分けをしている。							
	⑦説明文を書く時，対義語や慣用句，類義語などを適切に使っている。							
	⑧語句に注意して書くことを通して，語感を磨いている。							
	⑨意見発表文を書く時，多様な表現様式や文脈上の展開，文の成分の順序などについて考えている。							
	⑩記録文を書く時，単語の活用や助詞や助動詞の働きなどに注意している。							
	⑪手紙を書くとき，敬語に対する認識を深め相手に応じて適切に使っている。							
	⑫小学校学年別漢字配当表に示された漢字のうち，２年では９５０字程度書き，文章の中で使っている。							
	⑬小学校学年別漢字配当表に示された漢字のうち，３年ではその全てを書き，文章の中で使っている。							
	⑭手紙を書くとき，用具や字体，字形などを工夫して，読みやすい文字を正しく整えて速く書いている。							
	⑮毛筆書写の学習が硬筆書写の基礎を築うことを認識し，積極的に他の学習や生活に役立てている。							
	⑯音読や朗読を通して，語感を磨いている。							
	⑰抽象的な概念などを表す語彙を豊かにしている。							
	⑱文章を比較して読むとき，表現様式や文章の展開，文の成分の順序などを考えている。							
	⑲関係を表す助詞や判断などを表す助動詞などの活用や働きに注意して読む。							
	⑳会話などにおける共通語や方言，敬語の適切な使い分けに気を付けて読んでいる。							
	第１学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読める。							
	２学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字の大体を読んでいる。							